

平成医療福祉グループ

ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書

2026年2月27日

平成医療福祉グループ 概要

- 平成医療福祉グループは、「じぶんを生きる を みんなのものに」をミッションに掲げ、全国に100以上の病院・介護・福祉施設を運営する医療福祉グループです
- 1984年の創業以来、特に回復期・慢性期医療、リハビリテーションに注力しており、高齢者医療のパイオニアとして、患者中心の医療と、最期までその人らしい生活を送るためのケア（「絶対に見捨てない」）を提供しています

平成医療福祉グループ 概要

本社所在地	徳島県徳島市勝占町		
設立	1984年9月		
事業内容	病院事業、高齢者福祉事業、障がい者福祉事業 等		
グループ	医療法人 平成博愛会 医療法人社団 大和会 医療法人 康生会 医療法人 恵泉会 医療法人 横浜平成会 一般財団法人 岸和田農友協会 一般財団法人 多摩緑成会 医療法人社団 西宮回生病院 医療法人社団 南淡千遙会 医療法人社団 淡路平成会 医療法人 松風会 医療法人 山口平成会	社会福祉法人 平成記念会 社会福祉法人 関西中央福祉会 社会福祉法人 兵庫福祉会 社会福祉法人 幸仁会 社会福祉法人 せいざん福祉会 社会福祉法人 道心会 社会福祉法人 和生福会 社会福祉法人 平成福祉会 社会福祉法人 六心会	株式会社 メディス 他 11団体



(参考) 医療法人社団 大和会 概要

- 医療法人社団大和会は東京都足立区に本社を置き、1964年の設立以来、精神科医療を専門領域として地域に根差した医療を提供しています
- 中核施設である大内病院を中心に、複数の病院・介護事業所を運営し、精神科救急（スーパー救急）から社会復帰支援、在宅ケアまで一貫したサービス（地域精神ケア）を展開しているのが特徴です

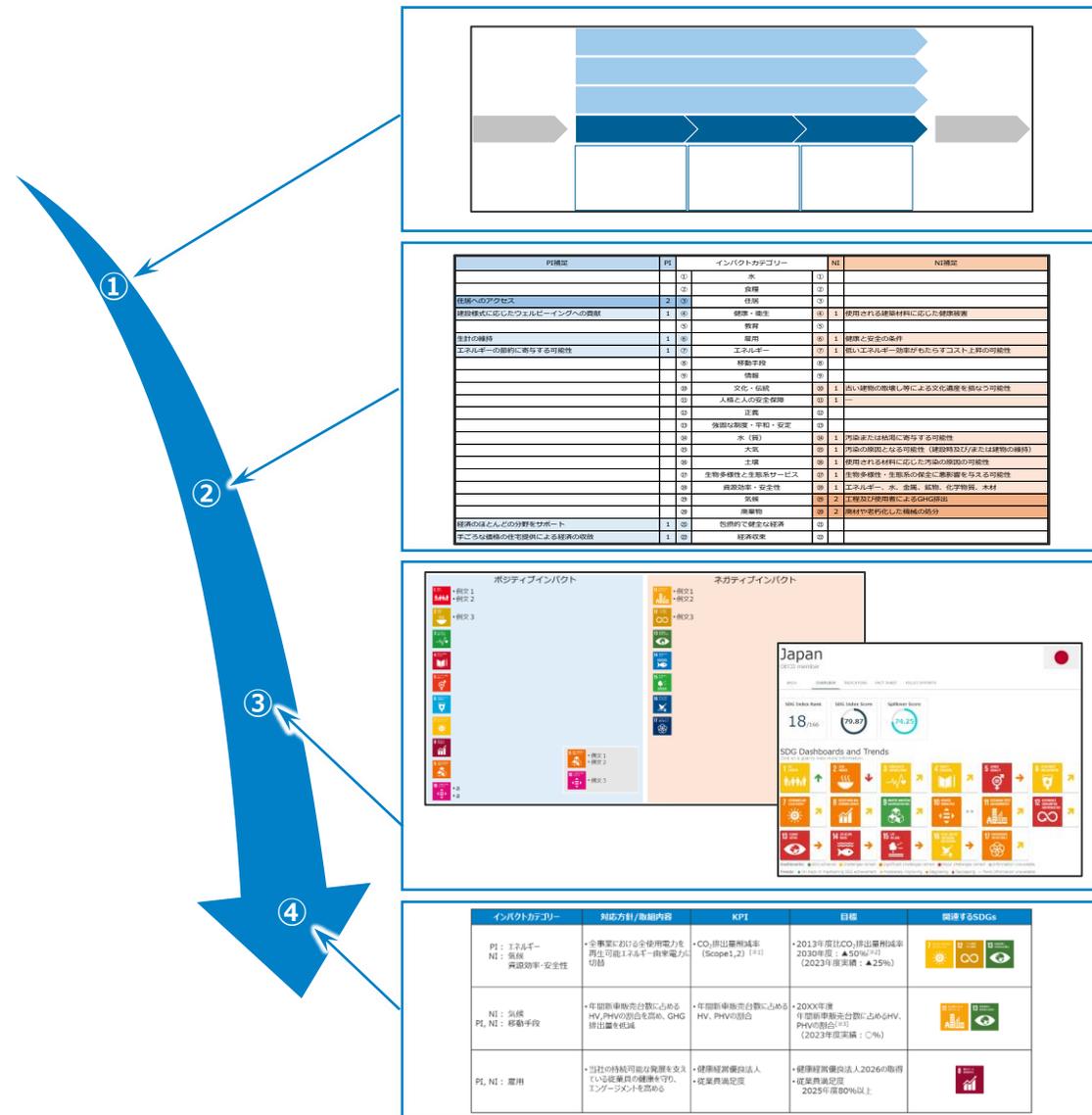
医療法人社団 大和会 概要	
本社所在地	東京都足立区
設立	1964年5月
事業内容	精神科病院を中核とする地域包括型医療・在宅支援事業
大内病院	精神科 児童精神科 老年精神科 心療内科 内科 228床
多摩川病院	内科 循環器内科 整形外科 リハビリテーション科 167床
平成扇病院	内科 リハビリテーション科 精神科 120床



インパクト分析フロー

- 下記のフローで当グループのインパクト（環境・社会・経済に与える影響）を分析いたしました

工程	内容
① バリューチェーン分析	当該事業が経済的価値を創出するに至るプロセス（製品・サービスの構想、製造、提供、消費等）を特定します。
② インパクトマッピング	国際標準産業分類（ISIC）を用いて、業種別の一般的に想定されるポジティブ／ネガティブインパクトを確認します。
③ インパクトの特定	上記①②及びヒアリング結果等から当該事業のインパクトを特定の上、SDGs等社会的な要請との整合を確認します。
④ KPI・目標の設定	ポジティブインパクトが増大する、あるいはネガティブインパクトが抑制されるようなKPIと目標を設定します。



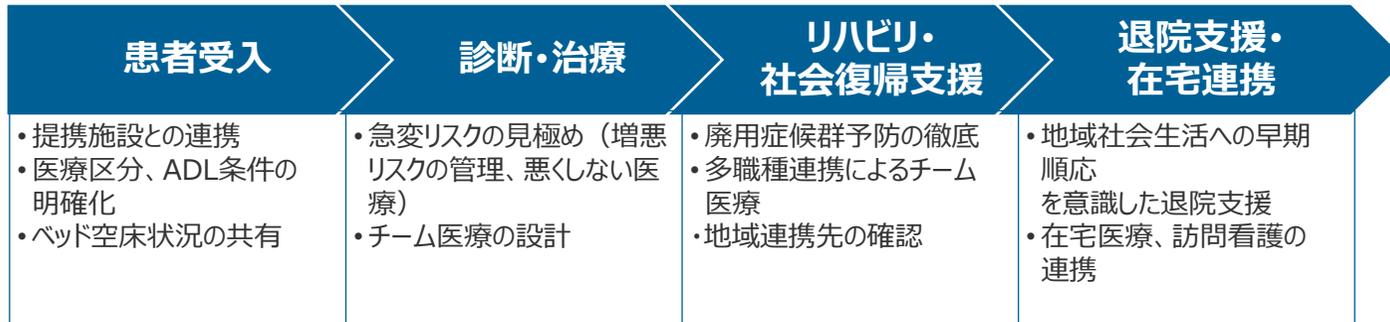
バリューチェーン分析 (当グループ事業：病院事業)

- 公表資料ならびに当グループへのインタビューから、病院事業のバリューチェーン*分析を行いました
*当グループの事業活動が付加価値を生み出す一連の流れ

当グループ事業：病院事業（施設での介護、訪問介護を含む）

経営戦略：「地域に必要とされる医療」を提供し、「地域密着型多機能病院」を目指す

人材戦略：スタッフの専門性を拡張しチームで成長し続ける



インパクトマッピング (当グループ事業：病院事業)

- ・ 特定した当グループの事業分野について、国際標準産業分類（ISIC）における産業分類に紐づけました
- ・ その上で、国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）のマッピングシートを用い、以下産業分類の一般的なインパクトを特定しました

当グループ事業：病院事業

⇒ ISIC：8610 病院事業

PI補足	PI	インパクトカテゴリー		NI	NI補足
		①	水	①	
		②	食糧	②	
		③	住居	③	
医療へのアクセス	2	④	健康・衛生	④	
		⑤	教育	⑤	
生計の維持	2	⑥	雇用	⑥	1 健康と安全、労働条件
		⑦	エネルギー	⑦	
		⑧	移動手段	⑧	
		⑨	情報	⑨	
		⑩	文化・伝統	⑩	
		⑪	人格と人の安全保障	⑪	
		⑫	正義	⑫	
		⑬	強固な制度・平和・安定	⑬	
		⑭	水（質）	⑭	
		⑮	大気	⑮	
		⑯	土壌	⑯	
		⑰	生物多様性と生態系サービス	⑰	
		⑱	資源効率・安全性	⑱	
		⑲	気候	⑲	1 建物・施設に関連する排出量
		⑳	廃棄物	⑳	1 廃棄物処理（有害廃棄物を含む）
経済活動の促進者	1	㉑	包摂的で健全な経済	㉑	
		㉒	経済収束	㉒	

(凡例) PI：ポジティブインパクト、NI：ネガティブインパクト、2：影響大、1：影響あり、空：影響なし

インパクトマッピング (当グループ事業：病院事業 (施設での介護))

- ・ 特定した当グループの事業分野について、国際標準産業分類 (ISIC) における産業分類に紐づけました
- ・ その上で、国連環境計画・金融イニシアティブ (UNEP FI) のマッピングシートを用い、以下産業分類の一般的なインパクトを特定しました

当グループ事業：病院事業 (施設での介護)

⇒ ISIC : 8710 居住介護施設

PI補足	PI	インパクトカテゴリー	NI	NI補足
		① 水	①	
		② 食糧	②	
特定の脆弱な立場にある人々の住居へのアクセスに貢献	1	③ 住居	③	
健康へのアクセス	1	④ 健康・衛生	④	1 健康とウェルビーイングを損なうリスク (例：過剰な入居)
		⑤ 教育	⑤	
生計の維持	2	⑥ 雇用	⑥	1 健康と安全、労働条件
		⑦ エネルギー	⑦	
		⑧ 移動手段	⑧	
		⑨ 情報	⑨	
		⑩ 文化・伝統	⑩	
特定の脆弱な集団における個人の完全性への貢献	1	⑪ 人格と人の安全保障	⑪	1 個人の尊厳を損なうリスク (例：過剰な入居)
		⑫ 正義	⑫	
		⑬ 強固な制度・平和・安定	⑬	
		⑭ 水 (質)	⑭	
		⑮ 大気	⑮	
		⑯ 土壌	⑯	
		⑰ 生物多様性と生態系サービス	⑰	
		⑱ 資源効率・安全性	⑱	
		⑲ 気候	⑲	
		⑳ 廃棄物	㉑	1 廃棄物処理 (有害廃棄物を含む)
		㉑ 包摂的で健全な経済	㉑	
		㉒ 経済収束	㉒	

(凡例) PI : ポジティブインパクト、NI : ネガティブインパクト、2 : 影響大、1 : 影響あり、空 : 影響なし

インパクトマッピング (当グループ事業：病院事業 (訪問介護))

- ・ 特定した当グループの事業分野について、国際標準産業分類 (ISIC) における産業分類に紐づけました
- ・ その上で、国連環境計画・金融イニシアティブ (UNEP FI) のマッピングシートを用い、以下産業分類の一般的なインパクトを特定しました

当グループ事業：病院事業 (訪問介護)

⇒ ISIC：8810 宿泊施設のない高齢者・障害者向け社会事業

PI補足	PI	インパクトカテゴリー		NI	NI補足
		①	水	①	
		②	食糧	②	
		③	住居	③	
脆弱な人々の健康に寄与	1	④	健康・衛生	④	
		⑤	教育	⑤	
生計の維持	2	⑥	雇用	⑥	1 健康と安全、労働条件
		⑦	エネルギー	⑦	
		⑧	移動手段	⑧	
		⑨	情報	⑨	
		⑩	文化・伝統	⑩	
特定の脆弱な集団における個人の完全性への貢献	1	⑪	人格と人の安全保障	⑪	
		⑫	正義	⑫	
		⑬	強固な制度・平和・安定	⑬	
		⑭	水 (質)	⑭	
		⑮	大気	⑮	
		⑯	土壌	⑯	
		⑰	生物多様性と生態系サービス	⑰	
		⑱	資源効率・安全性	⑱	
		⑲	気候	⑲	
		⑳	廃棄物	⑳	1 廃棄物処理 (有害廃棄物を含む)
		㉑	包摂的で健全な経済	㉑	
		㉒	経済収束	㉒	

(凡例) PI：ポジティブインパクト、NI：ネガティブインパクト、2：影響大、1：影響あり、空：影響なし

インパクトマッピング (一覧)

	インパクトカテゴリー	病院事業		介護施設		訪問介護	
		PI	NI	PI	NI	PI	NI
社会 入手可能性、アクセス可能性、 手ごろさ、品質（一連の固有の 特徴がニーズを満たす程度）	①	水					
	②	食糧					
	③	住居			1		
	④	健康・衛生	2		1	1	1
	⑤	教育					
	⑥	雇用	2	1	2	1	2
	⑦	エネルギー					
	⑧	移動手段					
	⑨	情報					
	⑩	文化・伝統					
	⑪	人格と人の安全保障			1	1	1
	⑫	正義					
	⑬	強固な制度・平和・安定					
環境 質（物理的・化学的構成・性質） の有効利用	⑭	水（質）					
	⑮	大気					
	⑯	土壌					
	⑰	生物多様性と生態系サービス					
	⑱	資源効率・安全性					
	⑲	気候		1			
	⑳	廃棄物		1		1	1
経済 人と社会のための経済的価値創造	㉑	包摂的で健全な経済	1				
	㉒	経済収束					

(凡例) PI : ポジティブインパクト、NI : ネガティブインパクト、2 : 影響大、1 : 影響あり、空 : 影響なし

SDGsとの関連性 (当グループ事業：病院事業)

- 環境省のインパクトファイナンスの基本的考え方を参考に、インパクトがあると判定されたカテゴリーについて、SDGsとの関連性を下図の通り整理しました

当グループ事業：病院事業

⇒ ISIC：8610 病院事業

ポジティブインパクト



・医療へのアクセス



・経済活動を促進する



・生計の維持

ネガティブインパクト



・健康と安全、労働条件



・廃棄物処理（有害廃棄物を含む）



・建物・施設に関連する排出量

SDGsとの関連性 (当グループ事業：病院事業 (施設での介護))

- 環境省のインパクトファイナンスの基本的考え方を参考に、インパクトがあると判定されたカテゴリーについて、SDGsとの関連性を下図の通り整理しました

当グループ事業：病院事業 (施設での介護)

⇒ ISIC：8710 居住介護施設

ポジティブインパクト



• 健康へのアクセス



• 生計の維持



• 特定の脆弱な集団における個人の完全性への貢献



• 特定の脆弱な立場にある人々の住居へのアクセスに貢献

ネガティブインパクト



• 健康とウェルビーイングを損なうリスク (例：過剰な入居)



• 健康と安全、労働条件



• 個人の尊厳を損なうリスク (例：過剰な入居)



• 廃棄物処理 (有害廃棄物を含む)

SDGsとの関連性 (当グループ事業：病院事業 (訪問介護))

- 環境省のインパクトファイナンスの基本的考え方を参考に、インパクトがあると判定されたカテゴリーについて、SDGsとの関連性を下図の通り整理しました

当グループ事業：病院事業 (訪問介護)

⇒ ISIC：8810 宿泊施設のない高齢者・障害者向け社会事業

ポジティブインパクト



• 健康へのアクセス



• 生計の維持



• 特定の脆弱な集団における個人の完全性への貢献

ネガティブインパクト



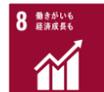
• 健康と安全、労働条件



• 廃棄物処理 (有害廃棄物を含む)

KPI・目標の設定について

- 以上のような分析結果を基に、インパクトマッピングにより特定されたインパクトについて、当グループが定めるVISION、MISSION等との整合性を踏まえ、KPI・目標を以下のように選択し、設定しました
- 目標年度及び目標値の設定、KPIの実績進捗（競争上の配慮から非開示）については年次モニタリングで確認します

インパクトカテゴリー	対応方針/取組内容	KPI	目標	関連するSDGs
PI, NI: 健康・衛生 人格と人の安全保障	• 身体拘束の廃止	• 身体拘束ゼロ施設数（3ヶ月毎）	定性的な目標として モニタリング	 
	• 離床の推進	• 全病院の平均離床時間		
PI: 住居 包摂的で健全な経済 PI, NI: 健康・衛生 人格と人の安全保障	• 在宅医療・訪問サービスの拡充	• 事業所数 • サービス件数	定性的な目標として モニタリング	    
	• 地域生活を支える就労・住まい・看護小規模多機能拠点の拡充	• 新規開設拠点数 • 各拠点の定員数 • 延べ利用者数	定性的な目標として モニタリング	
	• 地域共創による新しい医療・福祉モデルの構築（神山、大内プロジェクト、離島事業、海外事業、越境学習）	• プロジェクト数	定性的な目標として モニタリング	
PI: 包摂的で健全な経済 PI, NI: 雇用	• 多様な学びを提供する教育コンテンツの展開（オルタナ教育・HMW大学）	• 延べ生徒数（オルタナ教育） • コンテンツ提供回数（HMW大学） • 参加者数（HMW大学）	定性的な目標として モニタリング	 
	• 職種横断で協働するインクルーシブな組織文化の形成、職種間ヒエラルキーの撤廃、制服統一、1on1の実施	• 1on1実施[率/件数] • 制服統一実施[率/件数]	定性的な目標として モニタリング	
	• D&I取組みの推進	• D&I研修回数 • Ally職員数	定性的な目標として モニタリング	
	• 外国人人材の受入・育成・定着支援	• 延べ外国人職員数 • 年間新規受入人数	定性的な目標として モニタリング	

（凡例）PI：ポジティブインパクトの拡大、NI：ネガティブインパクトの抑制



ご留意いただきたい事項

- 本評価書の内容は、あおぞら銀行がその裁量により信頼できると判断した現時点で入手可能な公表資料や借入人へのヒアリングを通じて収集した情報に基づいて、現時点での状況の評価し作成されたものですが、あおぞら銀行は、当該情報の正確性、適時性、網羅性、完全性及び特定目的への適合性その他一切の事項について表明または保証するものではなく、当該情報を使用した結果について一切の責任を負いません。
- あおぞら銀行は、法律、会計、税務等の専門的資格を求められる内容に関しアドバイスを行う立場にありません。これらの専門的内容等につきましては、独立したそれぞれの専門家にご相談願います。
- 本評価書に係る一切の権利はあおぞら銀行が保有しています。本評価書の全部または一部をあおぞら銀行に無断で複製、翻案、改変等することは禁止されています。